

日南市中心市街地活性化基本計画の概要 ～来たい・住みたい 魅力あるまちづくり～



日南市総務部まちづくり課 白坂 昭仁

1. はじめに ～日南市の概要～

平成21年3月30日に、旧日南市、旧北郷町及び旧南郷町の3市町が合併して新しく誕生した日南市は、宮崎県南部に位置する人口約58,000人、面積536.12km²の県南の拠点都市で、東部に位置する日南海岸国定公園は、昭和40年代の新婚旅行ブームで全国に知られるようになりました。

また、年間の平均気温が18.7℃、平野部における平均年間日照時間が2,200時間と温暖多照な地域であることから、プロスポーツのキャンプ地として利用されています。

江戸時代の本市は、飢肥藩5万1千石が治める地であり、城下町であった「飢肥」は、九州の小京都として今でもその風情を残し、本市の観光地としてその名を馳せています。また、本市の東部に位置する港町「油津」は、大消費地である大阪への飢肥杉などの木材の積出しや海山産品の国内海運、日向灘を行き来する大阪航路の定着など、飢肥藩の台所であり、当時、木材運搬のために開削された堀川運河は、今でも油津のシンボルとして保存されています。



日南市の位置



日南海岸



堀川運河

れたことから、堀川運河沿いに旅館や雑貨商、食堂、銀行、呉服店などの商業地帯が自然発生的に展開し、本市の経済拠点を形成していきました。

大正時代には、県内で初めてとなる軽便鉄道や上水道が整備されるなど、市内でも先進的に社会基盤整備が進み、昭和に入ると、日南商工会議所や日南郵便局などの公共公益施設が立地し、また、昭和40年には、当時としては珍しい近代的な商店街アーケードが建設されるなど、本市の中心市街地を形成していきました。

3. 中心市街地の現況

本市の中心市街地は、商業、金融機関、医療機関、公共交通機関などの都市機能が集積し、少子高齢社会に対応したコンパクトシティを形成するとともに、多くのイベント等が開催されるなど、市民が集まる拠点でまちの顔となる地域です。

また、国道220号、222号が縦横に走り、JR油津駅やバスセンターが立地し、飛鳥IIなど客船が入港する油津港が隣接するなど、交通の要衝で、本市の玄関口となる地域であるとともに、堀川運河を中心に、国の登録有形文化財を19箇所も有し、観光客を誘引するポテンシャルを持つ地域でもあります。

しかしながら、近年は、人口減少や高齢化、郊外や近隣都市に大規模小売店舗等の立地が相次いだ影響により、歩行者通行量の減少や商店街における空き店舗の増加など、地域活力の低下が顕著になっています。

そのため、都市機能が集積し、人の集まる空間を有する中心市街地の特性や、観光資源と成りうる歴史的資産等を活かして、郊外や近隣都市とは異なる魅力を持つまちを形成して、地域活力を高め、本市の玄関口であるまちの顔を再生していくことが課題となっています。

2. 中心市街地の歴史

飢肥藩の台所であった油津は、江戸から明治時代にかけて、西日本各地から商用で船便を利用する人が多く訪

4. 中心市街地活性化の基本方針

本市中心市街地の課題を解決し、活性化を図るため、



中心市街地エリア (73.3ha)

3つの基本方針を定めています。

【基本方針】

① 誰もが楽しめるまちの形成

買い物環境の充実や子育て支援施設などの公共公益施設の設置、飲食・サービス店の誘導、堀川公園（堀川夢ひろば）の機能向上、各種イベントの開催など、市民の誰もが「集える・憩える・遊べる・楽しめる空間」を形成します。

② 便利で安心なまちの形成

日常生活に必要な店舗や高齢者と子どもの交流施設など、市民ニーズに即した生活に密接する機能を集積させ、また、地域活力向上に向けた、若い世代の居住を促進するとともに、公共交通機関の利便性を高め、世代を問わず「便利で安心なまち」を形成します。

③ 新たな来街を促す観光地の形成

本市に不足する団体観光客向けの観光拠点施設の整備、堀川運河を中心とした豊富な歴史的資産や食資源を活かすことにより、新たな観光地を形成し、本市の主要観光地である鶴戸神宮や飢肥をはじめ、本市を訪れる観光客の誘導を図り、「新たな来街で賑わうまち」を形成します。

5. 活性化に向けた主な事業

本市の基本計画では、3つの基本方針に基づき、48事業を計画しています。商店街をはじめ、商業機能が集積する堀川運河西側を「商業集積ゾーン」と位置付け、主に市民の利便性を高める事業を、歴史的資産が集積する



中心市街地全景

堀川運河東側を「観光推進ゾーン」と位置付け、主に観光客をターゲットとした事業を、医療機関や教育施設が集積する中心市街地エリア北部を中心に、エリア全域を「居住推進ゾーン」と位置付け、居住を誘導する事業を、社会資本整備総合交付金や中心市街地活性化ソフト事業等を活用し、実施することとしています。

【商業集積ゾーンでの主な取組】

① ・岩崎3丁目東・西地区優良建築物等整備事業（民間事業）

・子育て支援施設事業（市事業）

商業集積ゾーンに位置する空きビル用地を活用し、中心市街地に不足する商業機能・駐車場のほか、子育て支援施設・クリニックモール・住宅型有料老人ホーム・住居など、複合的な機能を持つビルを建設し、まちの魅力と生活利便性の向上を図ります。



岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業
(建設イメージ)

② ・テナントミックスサポート事業（市事業）

・空き店舗対策事業（市事業）

・食文化発信事業（民間事業）

空き店舗や空き地等を活用し、市民ニーズの高い店舗やグルメモール（屋台村）、マルシェ（市場）を誘導

し、まちの魅力向上を図ります。

③・多世代交流施設事業（市事業）

車両の通行規制やアーケードが整備され、歩行者に優しい空間である商店街を、市民が集い憩うコミュニティ空間として形成し、その核として、高齢者や子ども、子どもの親など、多くの世代が交流できる施設を整備し、魅力の向上を図ります。

【観光推進ゾーンでの主な取組】

④・観光拠点施設整備事業（市事業）

・歴史的由緒施設開館事業（市事業）

団体客の受け入れ可能な観光拠点施設の整備や歴史的資産である油津赤レンガ館等の活用を図り、観光地としての魅力を向上させ、観光客の滞在時間を延ばして、市内消費の増加を図ります。

⑤・水辺の集い・憩い空間づくり事業（市事業）

商業集積ゾーンと観光推進ゾーンの中間に位置する堀川公園（堀川夢ひろば）に噴水設備や木陰づくりを行うとともに、オープンカフェの社会実験を実施し、市民や観光客が集い憩う空間を形成します。



堀川夢ひろば（現況）

【居住推進ゾーンでの主な取組】

⑥・子育て世帯定住促進事業（市事業）

中心市街地にある民間賃貸住宅を活用し、子育て世帯が低家賃で居住できる環境を整備します。

⑦・空き家活用促進事業（市事業）

・住宅建築促進事業（市事業）

居住のための空き家改修や住宅建築に係る費用の

一部を支援し、定住人口の増加を図るとともに、未利用地の活用により、これまでに整備した社会資本ストックを有効活用し、地域活力の向上を図ります。

6. おわりに

子や孫の世代が誇りを持って住み続けたいと思えるまち、訪れる人がまた来たい、ここに住みたいと思えるまちを後世に残していくためにも、今の世代には本市ならではの魅力を持つまちをつくり、次世代に引き継いでいく責務があります。

そのためには、市民と行政が共にまちの将来を考え、協働でつくりあげていくことが重要です。

本市の計画は、新たな魅力拠点を形成する複合機能ビルや観光拠点施設などのハード事業を展開する一方、新たな施設はもちろん、商店街や歴史的資産などの既存施設の機能・魅力も引き出していくソフト事業を重視し、これらの取組に市民自らが参画できる形態を組み立てています。

本計画に位置付ける事業を、市民と連携して着実かつ効果的に実施していくため、本市では、国・県・市の行政機関や中心市街地活性化協議会をはじめとする市民、学識者、専門家、JR九州や建築士会などの関連団体等が参画する「油津まちづくり会議」を組織し、より戦略的に事業を進めていくこととしています。

本計画や油津まちづくり会議によって、中心市街地の活性化を図ることはもちろん、官民協働によるまちづくりの体制を、本市各地域におけるまちづくりのモデルケースにしていきたいと考えています。

（しらすか あきひと）



油津まちづくり会議